人類の生存と子どもたちの未来のために

核兵器のない世界へ―いま行動を

あけましておめでとうございます

〝変化〟の中で新しい年がはじまりました

世界の指導者たちが、次つぎと「核兵器のない世界」をよびかけています。米大統領選挙で「変化」を掲げ当選したオバマ氏は、「アメリカは核兵器のない世界を追求する」と宣言し大きな注目を集めました。

潘基文（パン・ギムン）国連事務総長は、10月の国連創立記念日に「核兵器のない世界」をテーマに講演し、核兵器禁止条約の交渉の検討を提案しました。12月にはカーター元米大統領、ゴルバチョフ元ソ連大統領などが期限を切った核兵器廃絶協定をめざす「グローバルゼロ宣言」を発表しました。

「核兵器のない世界を」新署名に

益川敏英さん、吉永小百合さん、張本勲さんもサイン

昨年夏、世界の平和団体の代表が広島に集まり、「核兵器のない世界を」というアピールを発表し、核保有国がすみやかに核兵器禁止条約の交渉を開始し、締結することに合意するよう求める署名運動をよびかけました。

日本では国民の1割、1200万筆を目標にとりくまれています。秋葉忠利広島市長、田上富久長崎市長をはじめ、ノーベル賞受賞者の益川敏英さん、女優の吉永小百合さん、元プロ野球選手の張本勲さんら多くの著名人が賛同しています。

署名は2010年春にニューヨークに集められ、核不拡散条約（NPT）再検討会議に提出されます。主旨に賛同する人なら誰でも自由に参加できます。あなたも今日からこの運動に加わってください。

憲法9条と「非核三原則」を実行する日本へ

改憲に突っ走ろうとした安倍首相も後継の福田政権も一年もたたずに政権を投げ出しました。麻生内閣も最初から「末期」と言われ、支持率も急落しています。世界が変わろうとしているときに、「日米同盟が不変の機軸」と言ってアメリカの「核の傘」に頼りっぱなしの日本。世界でただ一つ、原爆の悲惨さを体験した国としての責任が問われます。

憲法9条と「非核三原則」を実行し、「核の傘」から抜け出して核兵器廃絶に役割を果たすよう、私たちの声を上げましょう。

原水爆禁止日本協議会
〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4
TEL.03-5842-6031　FAX.03-5842-6033
http://www.antiatom.org/